

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科 家庭 科目 家庭総合

教科： 家庭

科目： 家庭総合

単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ E 組

教科担当者：（A～E組 前半クラス：渡邊 ／ 後半クラス：梅沢）

使用教科書：（「家庭総合 自立・共生・創造」 東京書籍 ）

教科 家庭

の目標：

【知識及び技能】

人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭総合

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
○生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに関する技能を身に付けている。	○生涯を見通し、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善しながら考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて課題の解決に主体的に取り組んだり振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭・地域の生活を創造し、実践しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	オリエンテーション ・今年度の家庭総合の学習内容と学び方について理解させる。	・今年度の学習項目と学習形態、評価方法等について説明する。	【主体的に学習に取り組む態度】 ・今年度の学習内容・方法等について理解し、主体的に学習に取り組もうとしている。			○	1
	第6章 食生活をつくる ・よりよい食習慣を身に付け、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解させる。 ・自分や家族が健康に過ごすための栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質、調理性について、科学的に理解を深める。 ・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みについて理解させる。 ・郷土料理や行事食など日本の食文化の特徴を確認し、世界の食文化に関心をもたせる。	食生活をつくる 1 食生活の課題について考える ・青年期の食生活の課題 ・「食べる」とは ・食生活の課題と変化 2 食事と栄養・食品 ・栄養と栄養素 ・栄養素と食品 3 食品の選択と安全 ・食品の選択 ・食品の保存と加工 ・食品の衛生と安全 4 生涯の健康を見通した食事計画 ・栄養バランスのよい食事 ・食事計画	【知識・技能】 ・食生活を取り巻く課題など、食と人のかかわりについて理解している。 ・ライフステージの特徴や課題に着目し、健康や環境に配慮した食生活について理解している。 ・自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・健康に配慮した家族の食事について課題を設定して解決策を構想し、実践から考察したことを論理的に表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食品と栄養、調理との関係において、科学的な視点を持って知識を深めようとしている。	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1
2 学期	第6章 食生活をつくる ・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身に付け、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に理解させる。 ・配膳やマナーに関心をもたせる。 ・自分や家族の食生活から持続可能な食生活のための安全、環境、健康などの情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考えさせる。	食生活をつくる 5 調理の基礎 ・調理法や味付けのバランス ・食事の場面を考えた調理 ・調理実習 6 食生活の文化と知恵 ・日本の食文化 ・世界の食文化 7 これからの食生活 ・食料生産と食料問題 ・食の安全性の確保 ・食をめぐる問題等への対策 ・持続可能な食生活を営む力	【知識・技能】 ・食品の調理上の性質について科学的に理解している。 【思考・判断・表現】 ・食品の特性と調理との関係において、科学的な思考を身に付け、食品選択、栄養計算や献立作成など、実際の食事づくりに向けての判断ができる。 ・調理実習において、作業の流れを判断しながら取り組むことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・調理実習において意欲的に取り組んでいる。 ・食生活の科学と文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうと実践しようとしている。	○	○	○	12
	第7章 衣生活をつくる ・被服の社会定・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解させる。 ・用途に合った着装を実践できる力を身に付けるため、社会生活を営む上での被服の役割について考えさせる。 ・被服の材料や性能、加工について科学的に理解させる。 ・被服表示を理解し、目的に応じた被服入手と着装について考える力を身に付ける。	衣生活をつくる 1 被服の役割を考える ・被服の機能 2 被服を入手する ・被服の表示 ・被服の材料 ・被服材料の性能と改善 3 被服を管理する ・被服の手入れ ・洗剤、漂白剤、仕上げ 4 被服を作る ・被服の構成 ・被服製作の工程 5 衣生活の文化と知恵 ・生活文化と被服 ・世界の民族衣装	【知識・技能】 ・衣生活を取り巻く課題など、被服と人との関わりについて理解を深めている。 ・被服の構成について科学的に理解し、縫製のための技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・被服材料の性能と特徴、被服整理についての科学的な知識を身に付け、衣服を適切に選択し管理することができる。 ・現在の衣生活について自分の衣生活を振り返り、課題を導き出すことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・被服製作や和服の着付けにおいて、実習に意欲的に取り組んでいる。 ・日本の伝統文化である和服への関心を深めている。	○	○	○	23
	定期考査			○	○		1
3 学期	第4章 超高齢社会を共に生きる ・超高齢社会の背景を理解させ、高齢期を支える社会の仕組みや課題について考えさせる。 ・加齢に伴う心身の変化と高齢期の自立を支えるための適切な支援の方法を考えさせる。 ・高齢者の生き方や尊厳についての理解を深めさせる。 ・これからの超高齢社会の課題を理解し、自分自身の高齢期の生き方について考えるとともに、地域社会の一員としての役割を考えさせる。	超高齢社会を共に生きる 1 超高齢・大衆長寿社会の到来 ・超高齢社会の現状 ・ライフステージとしての高齢期 2 高齢期の心身の特徴 ・老化と成熟 ・高齢期の健康と自立 ・高齢期の生きがいと生活課題 3 高齢者の自立を支える ・介助体験 4 これからの超高齢社会 ・介護をめぐる問題 ・高齢者とともに地域をつくる	【知識・技能】 ・超高齢社会の現状や高齢期の心身の特について理解している。 ・高齢者と適切にかかわるための知識と介助のための技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・超高齢社会の課題やその解決に向けた取り組みなどについて調べ、分析し、自分の考えをまとめることができる。 ・高齢者の自立生活を支えるための適切な支援の方法や関わり方について、高齢者の状況を判断して実践することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・介助実習において、意欲的に取り組み、高齢者の状況を理解しようとしている。	○	○	○	10

第10章 持続可能な生活を営む ・持続可能なライフスタイルの実現に向けて、身近な生活と環境とのかかわりについて理解させる。 ・一人の主体者として、社会をより良い方向に動かしていこうとする態度を養う。	持続可能な生活を営む 1 持続可能な社会を目指して ・大量消費社会の限界 ・より良い地球環境に向けて 2 一人一人の力で社会を動かす ・エシカル消費の実践 ・消費行動で社会を動かす	【知識・技能】 ・生活と環境のかかわりについて理解している。 ・持続可能な社会に参画することの意義について理解を深めている。 【思考・判断・表現】 ・ライフスタイルについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想して実践を評価するなど論理的に課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自足可能なライフスタイルと環境について考え、自薦しようとしている。	○	○	○	4
						合計
定期考査			○	○		70